授業科目名： アジアの近代と社会	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：大嶋英一 東　智美 担当形態：オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　社会）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「日本史・外国史」（中学校　社会） 「外国史」」（高等学校　地歴）

「学位授与の方針」との関係
多様な人々に対して、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束の精神に則って、人と人が共生する社会の実現に貢献する姿勢を身につけることを目指す。

授業の到達目標及びテーマ
（１）東南アジアの近代国家の成り立ちを理解し、説明できるようになる。（東担当）
（２）グローバリゼーションの下で東南アジア諸国が抱える社会問題について理解を深める。（東担当）
（３）今後の東南アジアと日本との関わりについて考察し、自分の見解を示せるようになる。（東担当）
（４）東南アジアと中国の関係について理解を深める（大嶋担当）。

授業の概要
　本授業では、東南アジア地域が近代以降に経験してきた、植民地化、国民国家の成立、民主化、近代産業化、経済発展、地域統合といった政治的・経済的変化を学び、それらがこの地域に暮らす人々の社会や文化に与えた影響について考察する。スクーリングでは、アクティブラーニングの手法も用いながら、グローバリゼーションの下のアジアをテーマに、具体的な事例を通して、アジアにおける経済開発の社会・環境影響や日本の経済協力の課題について学び、今後の東南アジア地域と日本の関わりについて考察する。

授業計画
第１回：イントロダクション：東南アジア地域とは（序章）
第２回：東南アジアの土着国家（序章）
第３回：ヨーロッパによる東南アジアの植民地化（第１章）
第４回：植民地時代の政治・経済・社会の変容（第１章）
第５回：日本の東南アジア占領統治（第２章）
第６回：独立運動と現代国家の誕生（第３章）
第７回：国民統合と分離独立（第３章）
第８回：開発主義国家の誕生と終焉（第４章）
第９回：民主化運動と民主主義国家への転換（第４章）
第１０回：経済開発と発展（第５章）
第１１回：経済開発の光と陰（第５章）
第１２回：地域機構 ASEAN の発展と ASEAN 経済共同体（AEC）への道（第６章）
第１３回：ASEAN の政治・経済問題（第６章）

第１４回　東南アジアと中国 第１５回：東南アジアの今後の展望と日本（終章） 定期試験
スクーリングでの学修内容 （主に、シラバスの授業計画の第１０～第１５回の内容を含む。） 　教科書で学んだことに触れながら、グローバリゼーションの下のアジアをテーマに、具体的な事例を通して、アジアにおける経済開発の社会・環境影響や日本の経済協力の課題について学ぶ。講義に加え、映像資料やディスカッションやグループワークも取り入れる。
教科書 　岩崎育夫（２０１７）『入門　東南アジア近現代史』講談社現代新書
参考文献 （１）今井昭夫 編・東京外国語大学東南アジア課程編 編集（２０１４）『東南アジアを知るための 50 章（エリア・スタディーズ)』明石書店 （２）ビル・ヘイトン（２０１５）『南シナ海』　河出書房新社
学生に対する評価 レポート評価（２５％)、スクーリング評価（２５％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。